

旭労災病院ニュース

病院情報誌

第 158 号

令和元年 10 月 1 日発行

発行所: 旭労災病院

〒488-8585

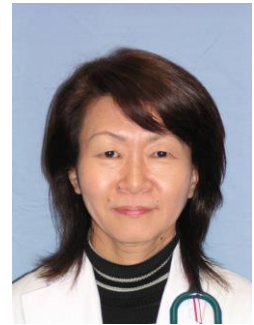
尾張国守平字北61番地

TEL 0561-54-3131

FAX 0561-52-2426

ネット・ゲーム依存症

小児科部長 安藤 郁子



厚生労働省研究班の調査では、2018年に中高生のネット・ゲーム依存は93万人に上り2013年の調査に比して倍増しているとの報告があった。また2018年6月には世界保健機構（WHO）がゲーム依存を障害と認定しICD-11に「ゲーム障害」という疾患名が誕生した。

DMS-5（精神疾患の診断・統計マニュアル：アメリカ精神医学会版）による診断基準では、

- 1) ネット・ゲームに夢中になっている。
- 2) 取り上げられたときには禁断症状（イライラ・暴言・暴力）がでる。
- 3) ネット・ゲームをする時間が増えていく。
- 4) 止めようと思ってもやめられない。
- 5) ネット・ゲーム以外への関心がなくなる。
- 6) しすぎると悪いとわかっているにもかかわらず続けてしまう。
- 7) していることについて嘘をついたことがある。
- 8) 嫌な事を忘れる（逃げる）ためにしてしまう。
- 9) 学校・友人関係などを失ったりしたことがある。

とあり、依存症としては以前からあるアルコール、ギャンブルなどと同様であるものの、この依存症は子どもらを蝕む大きな問題となっている。

日々の診療でユーチューブやオンラインゲームばかりやって勉強しないという母親の嘆きはよく聞く。勉強に夢中になってくれる方法はないものかとも相談される。しかし、依存物とは「快樂をもたらすもの」で「飽きにくい」ものと定義され、そもそも勉強は快樂をあまり感じないので依存する子どもが少ないのが残念なところである。

ネット・ゲーム依存症に陥りやすい背景には発達障害や、精神疾患、不大家族であることが多く、特に自己抑制力の弱い注意欠如/多動症（ADHD）や対人関係や社会性の苦手な自閉症スペクトラム（ASD）はそうでない人の10倍近い確率で依存になりやすいとの報告がある。私の発達支援外来でも、不登校や昼夜逆転してゲームしている子どもが受診することがあるが、発達障害や家庭環境などの背景が大きく影響し、投薬やカウンセリングなどで改善を試みるがなかなかうまくいかず対応に苦慮するばかりである。一方、幼児期から当院でフォローしている発達障害児に対しては、ネットやゲーム依存による生活習慣の乱れ、睡眠障害、昼夜逆転、不登校、引きこもりになる恐ろしさを常々伝え、どうしてもゲームを渡すなら親が制限できるよう、きちんと子どもとルールを決め、もし約束を守れなかったら（どんなに子どもが暴れても）没収するといった毅然とした親の態度を示すことを指導し、またできるだけ屋外で身体を使う活動や、人と関わって遊ぶトランプやボードゲームなどで過ごす時間を作るよう指導している。何よりもまず予防が大切だと訴え日々奮闘している昨今である。

アスベストは、耐熱性、絶縁性、保温性に優れ、断熱材、絶縁材、ブレーキライニング材などに古くから用いられ、「奇跡の鉱物」と重宝されていました。

そんな中、アスベストが原因の病気が、工場で働く人だけでなく、周辺の住民にも広がっていたことが2005年6月に大きく報道され社会に衝撃を与えました。国は同年の9月に全国25カ所の労災病院にアスベスト関連疾患に対して広範な取り組みを行い、医療面での社会的貢献を行うことを目的として「アスベスト疾患センター」を設置しました。当院が中部地区のブロックセンターに指名されたことに伴い、中央検査部病理では2006年より、肺組織・気管支洗浄液に含まれているアスベスト小体計測を実施する事になりました。この制度が始まった当初は、工場等での取り扱い（職業ばく露）の対象者が主でしたが、アスベストを含む建造物が数多く存在していることにより、今後は一般住民のアスベストに起因した健康被害が発生することを懸念しています。

【アスベスト小体計測の重要性】

アスベスト関連疾患は潜伏期間が30年～40年と長く、職業・既往・住んでいる環境などを年代順に聞き取りが必要です。しかし、石綿関連疾患は発症までの潜伏期間が長いことから、石綿ばく露歴が明らかでない場合もできます。そのため、医学的に客観的な石綿ばく露の所見としてアスベスト小体計測が重要となります。

【当院でのアスベスト小体計測】

アスベスト小体計測の依頼を受け、検体処理をしてから計測するまでにかかる時間は、検体の種類によって大きく変わってきます。①手術・解剖でのホルマリン検体 ②パラフィンブロックの検体 ③BALFの検体等があり、特にパラフィンブロックで提出された検体は、肺組織内のパラフィンを除去しないと計測が出来ないため、多くの時間を要します。また、標本作製にあたっては限られた肺組織を処理するため、細心の注意と技術が重要となります。

実際にアスベスト小体を計測する時は、長時間にわたり顕微鏡で観察・計測するため、集中力を保つ事がとても重要となります。私たち臨床検査技師は、多くの健康被害の患者さんが労災認定の救済を受けていただくため、技術の維持向上を図り、さらに日々の鍛錬と努力を今後も継続していきたいと考えています。

旭ろうさい病院の基本方針の中には「多職種と幅広く連携し、地域医療の充実に努めます」を掲げており、より良い医療サービスを提供するために、地域の医療機関との医療連携を積極的に進めていき、市民の皆さまに対して効率的で質の高い医療を提供していきたいと思っております。

